

日中未来遺産

中国「改革開放」の中の『草の根、日中開発協力の「記憶」』



著 岡田 実 (おかだみのる)

拓殖大学国際学部教授。東北大学法学部卒業後、民間企業勤務を経て、1988年に国際協力事業団（現国際協力機構、JICA）入職。JICAでは北京大学留学、中国事務所員、中国援助調整専門家、中国事務所副所長として約10年間対中政府開発援助（ODA）に従事した他、本部、外務省経済協力局、JICA研究所等で勤務。

2010年、法政大学大学院で政治学博士号を取得し、2012-13年度法政大学法学部兼任講師。2014年度より現職。

現在を生きる我々が、未来へと伝えていかなければならない
日中の「記憶」とは？

「改革開放」40周年を迎える世界第二の経済大国に躍り出た中国。その初期、「草の根」で黙々と汗を流し、農村の発展を支えた日本人たちがいた。中国唯一の「日本人公墓」がある黒龍江省方正県で寒冷地稲作技術を伝えた藤原長作、中国全土でコメの増産に貢献した原正市、スイカの品種改良に心血を注ぎ、北京の人気銘柄に名前の一文字が採用された森田欣一、「一村一品」運動が中国でも広く受容された平松守彦……。「戦争の記憶」が色濃く残る中国で顕著な成果を挙げた日本人4人の「開発協力の記憶」をひもとき、日中の未来を考える。

日中開発協力の「記憶」に
残された戦後の日本人たち

藤原長作

五千人の遺骨が日本人公墓に眠る方正県で寒冷地での稲作技術を中国に伝えた

原 正市

中国全土の米増産に貢献し「洋財神（外国から来て懐を豊かにしてくれた神様）」と呼ばれた

森田欣一

スイカに刻まれた日中協力の「記憶」——北京市民に人気の「京欣一号」を育種

平松守彦

大分「一村一品」の理念と実践経験を通じて農村の発展に貢献

ご注文は、全国の書店、アマゾンなどをご利用いただけます。トーハン 日販 その他 取次コード：5752

日中未来遺産 中国「改革開放」の中の『草の根、日中開発協力の「記憶』  ISBN 978-4-86185-276-3 発行日：2019年9月2日 四六判 160頁 並製 定価：本体1900円+税	注文部数 部 <small>(送料無料)</small>	ご注文 / 番線印 送信 FAX 03-5956-2809
		注文部数、住所 〒、氏名、電話番号をご記入ください